

11団体が東北大会切符

合唱県大会
高校と一般 3年ぶり有観客



清らかな歌声を響かせ、金賞を受けた盛岡二音楽部

第74回全日本合唱コンクール県大会（県合唱連盟など主催）は27日、盛岡市内丸の県民会館で開幕した。高校部門は一関一・付属中、不来方、盛岡二、盛岡四混声、同女声、一関修紅・花泉、盛岡一、盛岡誠校の8団体が金賞に選ばれ、東北支部大会（9月23～25日、福島県郡山市）の出場を決めた。中止、無観客と昨年まで新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、3年ぶりに一般客を入れて開催した。高校部門は23団体が出場。うちコロナ感染などの影響で会場に来られなかった2団体には音源審査での救済措置を講じた。

スの近現代曲「人間の顔」を12パートで重厚に歌い上げた。吉田陽部長（3年）は「平和を願った。複雑なハーモニーに苦戦したが歌詞の意味と強弱がつかなくなるよう工夫した」と話した。盛岡二音楽部の24人は、幻想的な夢の世界を歌った「七月堂の兎たち」を速いテンポで清らかに披露。和山楓奈部長（同）は「練習はマスク着用や時間の制約で苦労したが、一体感ある歌声と感謝を会場に届けられた」と振り返った。大学職場一般部門は5団体出場。盛岡コメット混声合唱団、Amphis Chor、一関市民合唱団の3団体が金賞に選ばれ、東北支部大会に出場する。

県大会はステージ上のみマスクを外し、会場の換気を徹底するなど、コロナ対策を講じて実施。最終日の28日は小学校と中学校の2部門を行う。

（岩手日報）

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。